

# 【乳汁検査まとめ】

## はじめに

先月に引き続き、2022年において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

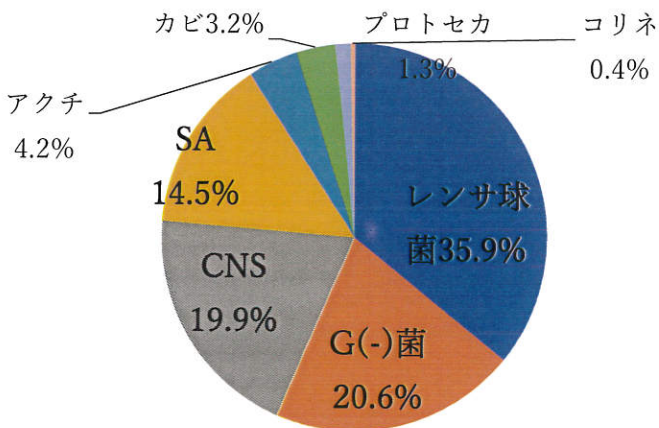
検査頭数は1855頭、検査分房数は3438分房で、菌の生えた分房数は1970分房、菌の検出されなかった分房数は1468分房でした（それぞれ重複を含む）。

## 略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル10%	—
ST	トリオブリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

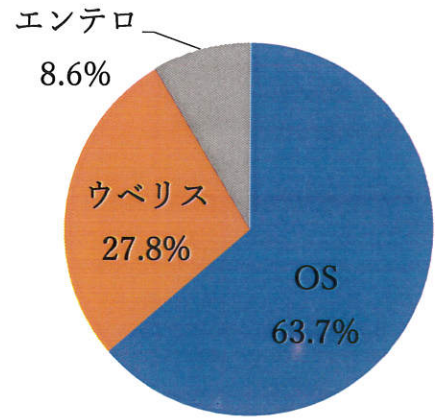
## 原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記

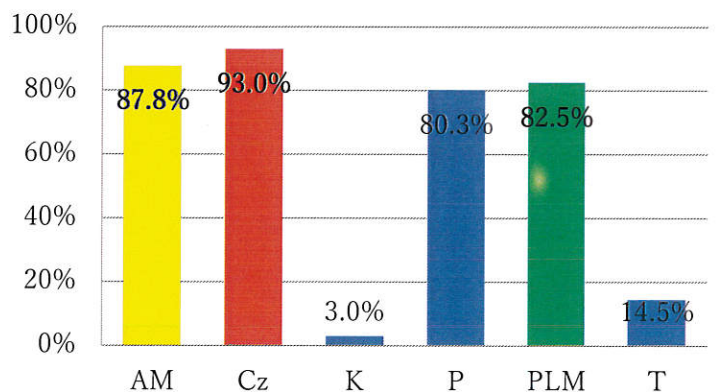


グラフ2 レンサ球菌割合

グラフ1にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球菌の発生分房数は630でした。OSが401分房で、割合は63.7%となり最多でした。ウベリスは175分房で、割合は27.8%でした。エンテロコッカスは54分房で、割合は8.6%でした。

## G(+)菌感受性割合

OS (401)



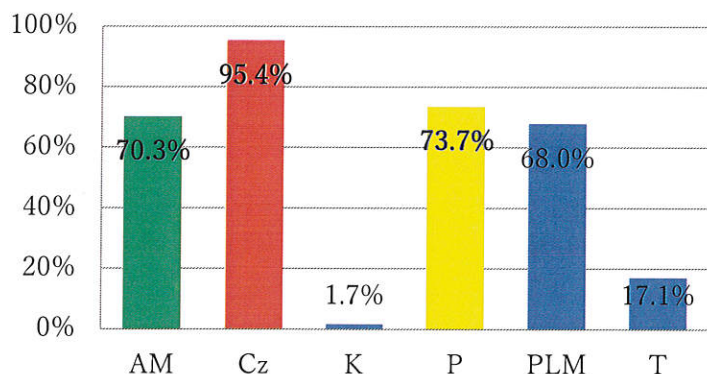
グラフ3 OS感受性割合



Total Herd Management Service

感受性割合の上位3つの薬品は Cz (セファメジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン Na)、PLM (ピルスー) で、 Cz (セファメジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン Na)は90%前後、PLM(ピルスー)、P (ペニシリン・ニューサルマイ) も80%を超える結果となりました。

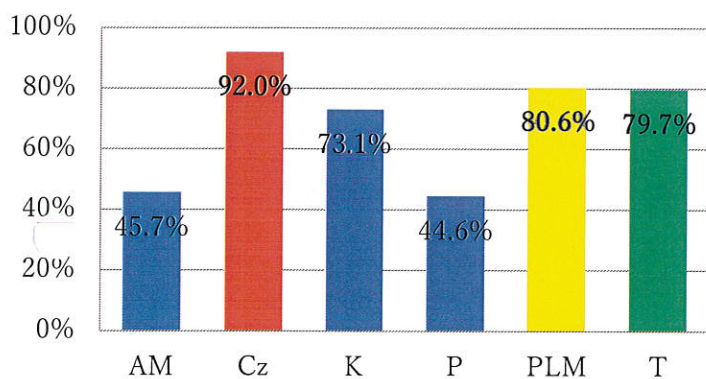
ウベリス (175)



グラフ4 ウベリス感受性割合

Cz (セファメジン・セファゾリン) は95%を超えています、P (ペニシリン・ニューサルマイ)、AM(アンピシリン Na)、PLM (ピルスー) は70%前後という結果になりました。

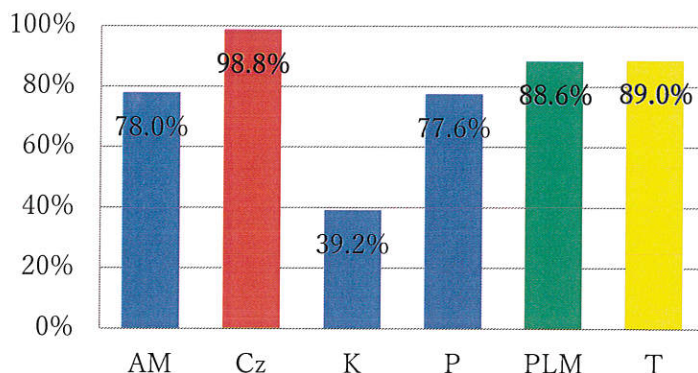
CNS (350)



グラフ5 CNS感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は Cz (セファメジン・セファゾリン)、PLM (ピルスー)、T (OTC注・OTC軟膏) となりました。Cz (セファメジン・セファゾリン) は90%を超える結果となりました。

SA (255)



グラフ6 SA感受性割合

SAにおいても上位3つの感受性薬剤はCNSと同様になりました。Cz (セファメジン・セファゾリン) は95%を超えており、T(OTC注・OTC軟膏)、PLM (ピルスー) も90%弱という結果になりました。

## 最後に

今回紹介したG (+) 菌においてはCz (セファメジン・セファゾリン) が90%を超える結果となりました。今回紹介しなかったアルカノバクテリウム(アクチ、化膿菌)、コリネバクテリウムにおいても同様にCz (セファメジン・セファゾリン) が90%を超える結果となりました。G (-) 菌でないことが確定したら、Cz (セファメジン・セファゾリン) は第一選択薬と考えても問題ない感受性割合です。

しかし、中々治癒しない場合は速やかに乳汁検査を実施又は依頼しましょう。そもそも抗生剤が効かない微生物(酵母様真菌、プロトセカ等)なのか、感受性が無いのか、治療日数が足りないのかの判断にもなります。効率的な治療を心がけましょう。

富田大祐



Total Herd Management Service